平成28年度事務事業一覧表　　課名：生涯学習課図書館　　第1号様式

事業番号	事業名	内　容	対象外項目番号
1	図書館維持管理事業	施設環境維持のための各種保守委託・借上	－
2	図書館運営事業	図書館サービス全般	－
3	図書館コンピュータ・ネットワークシステム推進事業	コンピュータシステムの維持・管理	－
4	図書資料整備事業	図書館資料（図書、逐次刊行物、視聴覚資料）の整備	－
5	子ども読書推進事業	児童サービス及び家庭・地域・学校等との連携	－

平成　28　年度事務事業評価シート

第２号様式

		シート作成日	平成28年10月11日
予算事業名	図書館維持管理事業	担当課名	生涯学習課図書館
		係名	―
細分事業名	―	事業番号	1
		事業開始年度	―

1.総合計画上の位置づけ

柱	Ⅳ　心豊かな人を育てるまちづくり	総合計画実施計画	
部門	４　生涯学習	認定番号	―
大施策	Ａ　生涯学習の環境づくり	事業名	―
中施策	（２）　生涯学習施設の充実		

2.事業の概要

根拠法令・条例等	図書館法、大磯町立図書館の設置、管理等に関する条例、大磯町立図書館の設置、管理等に関する条例施行規則			
個別計画等	―			
行政経営プラン 実施計画事業	実施番号	―	実施項目名	―
目的 （何のために）	施設の良好な環境を維持管理するため、管理・保守委託、修繕を実施する。			
対象 （誰を・何を）	図書館の施設・設備及び利用者に提供する環境			
内容	利用者に良好な環境を提供するため、清掃等の各種保守委託を実施し、施設・設備の維持管理を行う。			
執行体制	■ 町職員実施	□ 一部委託あり	□ 全部委託	□ その他

		単位	平成26年度 （決算）	平成27年度 （決算見込）	平成28年度 （予算）
事業費	直接事業費　(a)	千円	10,361	9,673	9,887
	国庫支出金	千円			
	県支出金	千円			
	起債	千円			
	その他	千円	802	601	460
	一般財源	千円	9,559	9,072	9,427
	職員人数（概算職員数）	人	0.25	0.25	0.25
	人 件 費 計　(b)	千円	1,532	1,160	1,443
	総事業費 (a)+(b)	千円	11,893	10,833	11,330

事業費内訳 Ｈ　28　年度	需用費：5,302千円　役務費：112千円　委託料：4,379千円　使用料及び賃借料：87千円　負担金補助及び交付金：7千円

3.指標値の推移

各種指標の実績と見込み、目標 （ 指 標 名 ）			単位	26年度 （実績値）	27年度 （実績値）	28年度 （見込み又は計画値）
対象指標 （対象者数等）	①	電気使用量	kwh	165,883	171,866	162,934
	②					
活動指標 （活動量）	①	電気料金	円	4,116,766	3,872,638	3,145,250
	②					
成果指標 （達成度等）	①	kwh当たりの単価	kwh	24.8	22.5	19
	②					

4.事務事業の評価

妥当性	・実施主体は妥当か		■ 妥当　□ おおむね妥当　□ 変更の必要あり　□ その他
		理由	図書館施設、設備の保守委託、修繕等を行う。
	・実施手段は妥当か		■ 妥当　□ おおむね妥当　□ 改善の必要あり　□ その他
		理由	図書館施設、設備の保守委託、修繕等を行う。
成果	・意図した成果が得られているか		□ 得られている　■ おおむね得られている　□ 得られていない　□ その他
		理由	保守委託、修繕等を行うことにより、施設、設備の安全性の確保が図られている。
効率性	・コストに対して効率的か		□ 効率的　■ おおむね効率的　□ 非効率　□ その他
		理由	保守委託、修繕等を行うことにより、施設、設備の安全性の効率的な運用が行われている。
	・コストの削減等を図ったか		□ 図った　□ 図られていない　■ 図る余地は無い　□ その他
		理由	図書館施設、設備の運用に必要な経費である。

担当課による評価	■	A 妥当性、成果、効率性はおおむね良いが、改善の余地がある	評価理由
	□	B 事業の一部見直しが必要	施設、設備の維持のために必要な経費である。
	□	C 事業の抜本的な見直しが必要	
	□	D 事業継続の必要性が低い（休止・廃止）	

5.改革・改善の方向性

① 課題点や改善点
長期修繕計画に基づいた計画的な修繕の実施
② 平成28年度に着手する事項
自動ドアガイドレール交換修繕、誘導灯設備交換修繕、ABC粉末消火器交換、館内照明器具修繕
③ 平成29年度に着手する事項
館内照明器具交換、駐輪場タイル修繕、１階トイレ改修

6.平成29年度事業への取組み状況（改善内容等）

記入日	平成29年3月29日

１階トイレ改修

平成　28　年度事務事業評価シート

第２号様式

		シート作成日	平成28年10月11日
予算事業名	図書館運営事業	担当課名	生涯学習課図書館
		係名	―
細分事業名	―	事業番号	2
		事業開始年度	―

１.総合計画上の位置づけ

柱	Ⅳ　心豊かな人を育てるまちづくり	総合計画実施計画	
部門	４　生涯学習	認定番号	―
大施策	Ａ　生涯学習の環境づくり	事業名	―
中施策	（２）　生涯学習施設の充実		

２.事業の概要

根拠法令・条例等	図書館法、大磯町立図書館の設置、管理等に関する条例、大磯町立図書館の設置、管理等に関する条例施行規則			
個別計画等	図書館サービス計画2011-2015			
行政経営プラン 実施計画事業	実施番号	―	実施項目名	―
目的 （何のために）	図書館利用者に各種図書館サービスを提供するため、窓口等に人員を配置して、図書館サービスを円滑に行う。			
対象 （誰を・何を）	図書館利用者に各種図書館サービスを行う。			
内容	窓口等に臨時職員を配置し、各種図書館サービスを利用者に提供する。			
執行体制	■ 町職員実施	□ 一部委託あり	□ 全部委託	□ その他

		単位	平成26年度 （決算）	平成27年度 （決算見込）	平成28年度 （予算）
事業費	直接事業費　(a)	千円	15,150	15,781	16,090
	国庫支出金	千円			
	県支出金	千円			
	起債	千円			
	その他	千円	164	415	220
	一般財源	千円	14,986	15,366	15,870
	職員人数（概算職員数）	人	2.60	2.65	2.40
	人 件 費 計　(b)	千円	14,410	11,329	13,853
	総事業費 (a)+(b)	千円	29,560	27,110	29,943

事業費内訳 Ｈ　28　年度	報酬：73千円　共済費：224千円　賃金：13,533千円　報償費：40千円　旅費：8千円　需用費：1,234千円　役務費：617千円　委託料：220千円　使用料及び賃借料：99千円　負担金補助及び交付金：35千円　公課費：7千円

３.指標値の推移

各種指標の実績と見込み、目標 （ 指 標 名 ）			単位	26年度 （実績値）	27年度 （実績値）	28年度 （見込み又は計画値）
対象指標 （対象者数等）	①	町人口(10.1現在)	人	32,439	32,418	31,489
	②					
活動指標 （活動量）	①	貸出点数	点	185,930	185,682	190,000
	②	来館者数	人	176,236	185,553	180,000
成果指標 （達成度等）	①	町民1人当たりの貸出数	点	5.7	5.7	6.0
	②	町民1人当たりの来館回数	人	5.4	5.7	5.3

4.事務事業の評価

妥当性	・実施主体は妥当か		■ 妥当　□ おおむね妥当　□ 変更の必要あり　□ その他
		理由	利用者のニーズに応え、資料提供を行うのは公共図書館の役割であり、町が実施するのは妥当である。
	・実施手段は妥当か		■ 妥当　□ おおむね妥当　□ 改善の必要あり　□ その他
		理由	窓口業務に司書資格のある職員、臨時職員を配置して利用者のニーズに応えている。
成果	・意図した成果が得られているか		■ 得られている　□ おおむね得られている　□ 得られていない　□ その他
		理由	利用者のニーズを把握して、継続的なサービスの向上が図られている。
効率性	・コストに対して効率的か		■ 効率的　□ おおむね効率的　□ 非効率　□ その他
		理由	利用者のニーズを把握して、貸出等のサービスに関し一定の成果をあげている。
	・コストの削減等を図ったか		□ 図った　□ 図られていない　■ 図る余地は無い　□ その他
		理由	必要最小限の予算で窓口業務等を運営しており、コストの削減を図る余地はない。

			評価理由
担当課による評価	■	A 妥当性、成果、効率性はおおむね良いが、改善の余地がある	利用者のニーズに応えて、サービスが適切に実施されている。
	□	B 事業の一部見直しが必要	
	□	C 事業の抜本的な見直しが必要	
	□	D 事業継続の必要性が低い（休止・廃止）	

5.改革・改善の方向性

① 課題点や改善点

利用者のニーズに応え、一層親しみを持って図書館が活用されるよう読書環境の整備に努める。

② 平成28年度に着手する事項

窓口でのレファレンスサービスを充実させ、利用者の調査・研究の支援を強化する。
新刊図書の展示期間を30日から45日に拡大し、更なる利用の促進を図る。
延滞者への注意喚起を促し、資料の効率的な貸出を図る図書館サービス計画を策定する。

③ 平成29年度に着手する事項

図書館サービス計画に基づき、図書館サービスの充実させ、更なる利用の促進を図る。

6.平成29年度事業への取組み状況（改善内容等）

記入日	平成29年3月29日

話題の本、懐かしの本、読書の日特集、ミニ特集（短期間の本の展示）、おすすめＣＤ等の展示貸出しを定期的に実施

平成　28　年度事務事業評価シート

第２号様式

		シート作成日	平成28年10月11日
予算事業名	図書館コンピュータ・ネットワークシステム推進事業	担当課名	生涯学習課図書館
		係名	—
細分事業名	—	事業番号	3
		事業開始年度	—

1.総合計画上の位置づけ

柱	Ⅳ　心豊かな人を育てるまちづくり	総合計画実施計画	
部門	４　生涯学習	認定番号	—
大施策	Ａ　生涯学習の環境づくり	事業名	—
中施策	（２）　生涯学習施設の充実		

2.事業の概要

根拠法令・条例等	図書館法、大磯町立図書館の設置、管理等に関する条例、大磯町立図書館の設置、管理等に関する条例施行規則			
個別計画等	—			
行政経営プラン実施計画事業	実施番号	—	実施項目名	—
目的（何のために）	図書館サービスを遂行するため、図書館コンピュータ・システムの維持管理を行い、図書館業務の効率的な運営を行うとともに、利用者への情報提供サービスを行う。			
対象（誰を・何を）	図書館業務全般、インターネット蔵書検索			
内容	貸出、返却、予約、資料管理、発注管理、インターネット蔵書検索などを円滑に行う。			
執行体制	■ 町職員実施	□ 一部委託あり	□ 全部委託	□ その他

		単位	平成26年度（決算）	平成27年度（決算見込）	平成28年度（予算）
事業費	直接事業費　(a)	千円	4,103	3,757	5,972
	国庫支出金	千円			
	県支出金	千円			
	起債	千円			
	その他	千円			
	一般財源	千円	4,103	3,757	5,972
	職員人数（概算職員数）	人	0.15	0.15	0.25
	人件費計　(b)	千円	919	895	1,443
	総事業費 (a)+(b)	千円	5,022	4,652	7,415
事業費内訳 Ｈ　28　年度	需用費：174千円　役務費：243千円　使用料及び賃借料：5,555千円				

3.指標値の推移

各種指標の実績と見込み、目標（指標名）			単位	26年度（実績値）	27年度（実績値）	28年度（見込み又は計画値）
対象指標（対象者数等）	①	図書館登録者数(他市町含む)	人	21,245	22,095	23,000
	②					
活動指標（活動量）	①	インターネット予約件数	件	14,227	15,223	17,000
	②					
成果指標（達成度等）	①	貸出点数	点	185,930	185,682	190,000
	②					

4.事務事業の評価

妥当性	・実施主体は妥当か		■ 妥当　□ おおむね妥当　□ 変更の必要あり　□ その他
		理由	図書館利用者のための蔵書検索、予約、貸出、返却事務の効率化の業務内容である。
	・実施手段は妥当か		■ 妥当　□ おおむね妥当　□ 改善の必要あり　□ その他
		理由	図書館利用者のための蔵書検索、予約、貸出、返却事務の効率化の業務内容である。
成果	・意図した成果が得られているか		■ 得られている　□ おおむね得られている　□ 得られていない　□ その他
		理由	利用者の蔵書検索、予約などのサービスの充実が図られている。
効率性	・コストに対して効率的か		■ 効率的　□ おおむね効率的　□ 非効率　□ その他
		理由	利用者の蔵書検索、予約、貸出、返却と資料管理、発注管理が効率的に行われている。
	・コストの削減等を図ったか		□ 図った　□ 図られていない　■ 図る余地は無い　□ その他
		理由	平成27年11月からコンピュータ・システムのリプレースを行い、コンピュータ・システムの安定した運営を図っている。

担当課による評価	■	A 妥当性、成果、効率性はおおむね良いが、改善の余地がある	評価理由
	□	B 事業の一部見直しが必要	利用者のニーズに応えて、サービスが適切に実施されている。
	□	C 事業の抜本的な見直しが必要	
	□	D 事業継続の必要性が低い（休止・廃止）	

5.改革・改善の方向性

① 課題点や改善点
学校図書館との連携システムの導入についての検討
② 平成28年度に着手する事項
学校図書館との連携を踏まえた次期システムの検討に着手する。
③ 平成29年度に着手する事項
学校図書館との連携を図るためのシステムを導入する。

6.平成29年度事業への取組み状況（改善内容等）

記入日	平成29年3月29日

学校図書館に設置しているパソコン及びプリンタの更新を行う。

平成　28　年度事務事業評価シート

第２号様式

		シート作成日	平成28年10月11日
予算事業名	図書館資料整備事業	担当課名	生涯学習課図書館
		係名	―
細分事業名	―	事業番号	4
		事業開始年度	―

1.総合計画上の位置づけ

柱	Ⅳ　心豊かな人を育てるまちづくり	総合計画実施計画	
部門	４　生涯学習	認定番号	―
大施策	Ａ　生涯学習の環境づくり	事業名	―
中施策	（２）　生涯学習施設の充実		

2.事業の概要

根拠法令・条例等	図書館法、大磯町立図書館の設置、管理等に関する条例、大磯町立図書館の設置、管理等に関する条例施行規則			
個別計画等	―			
行政経営プラン 実施計画事業	実施番号	―	実施項目名	―
目的 （何のために）	町民の多様なニーズに応えるため、年間を通じて定期的かつ計画的に図書館資料を整備する。			
対象 （誰を・何を）	図書館資料			
内容	一般書、児童書、郷土資料、逐次刊行物、視聴覚資料等の選定、購入、受入、整理、保存などの図書館資料の管理を行う。			
執行体制	■ 町職員実施	□ 一部委託あり	□ 全部委託	□ その他

		単位	平成26年度 （決算）	平成27年度 （決算見込）	平成28年度 （予算）
事業費	直接事業費　(a)	千円	9,310	9,812	9,812
	国庫支出金	千円			
	県支出金	千円			
	起債	千円			
	その他	千円			
	一般財源	千円	9,310	9,812	9,812
	職員人数（概算職員数）	人	0.45	0.60	0.60
	人 件 費 計　(b)	千円	2,377	2,584	3,463
	総事業費 (a)+(b)	千円	11,687	12,396	13,275
事業費内訳 Ｈ　28　年度	需用費：9,812千円				

3.指標値の推移

各種指標の実績と見込み、目標 （ 指 標 名 ）			単位	26年度 （実績値）	27年度 （実績値）	28年度 （見込み又は計画値）
対象指標 （対象者数等）	①	町人口(10.1現在)	人	32,439	32,418	31,489
	②	町世帯数(10.1現在)	世帯	12,820	12,979	12,316
活動指標 （活動量）	①	蔵書冊数	冊	225,825	227,000	227,000
	②	購入冊数	冊	4,554	4,195	4,200
成果指標 （達成度等）	①	人口1人当たりの蔵書数	冊/人	7.0	7.0	7.2
	②	1世帯当たりの購入数	冊/世帯	0.36	0.32	0.34

4.事務事業の評価

妥当性	・実施主体は妥当か		■ 妥当　□ おおむね妥当　□ 変更の必要あり　□ その他
		理由	資料の選定には蔵書構成や利用者のニーズを熟知している必要があり、町が主体は妥当である。
	・実施手段は妥当か		■ 妥当　□ おおむね妥当　□ 改善の必要あり　□ その他
		理由	図書館職員による選定会議の実施は、蔵書構成や利用者のニーズを熟知しており、手段は妥当である。
成果	・意図した成果が得られているか		■ 得られている　□ おおむね得られている　□ 得られていない　□ その他
		理由	資料の選定では、一般書、児童書、郷土資料等、多岐にわたる分野での知識と経験を生かし、成果が得られている。
効率性	・コストに対して効率的か		■ 効率的　□ おおむね効率的　□ 非効率　□ その他
		理由	資料の選定は定期的に行う選定会議で厳選している。
	・コストの削減等を図ったか		□ 図った　□ 図られていない　■ 図る余地は無い　□ その他
		理由	利用者のニーズに応えるための資料を収集する必要経費であるため、削減を図る余地はない。

担当課による評価	■	A 妥当性、成果、効率性はおおむね良いが、改善の余地がある	評価理由
	□	B 事業の一部見直しが必要	資料選定を選定会議の定期的な開催により厳選している。
	□	C 事業の抜本的な見直しが必要	
	□	D 事業継続の必要性が低い（休止・廃止）	

5.改革・改善の方向性

① 課題点や改善点

限られた予算の中で最大限の効果を発揮できるよう、利用者の多様なニーズに応えて資料選定を行うとともに、将来の利用を見据えて体系的な資料選定に努める。

② 平成28年度に着手する事項

利用者の課題解決や調査・研究を支援するため、参考図書の充実、更新を図る。

③ 平成29年度に着手する事項

図書館サービス計画に基づき、利用者の課題解決や調査・研究を支援するため、参考図書の充実、更新を図る。

6.平成29年度事業への取組み状況（改善内容等）

記入日	平成29年3月29日

利用者の貸出し利用実績及び社会情勢等を勘案して、計画的に参考図書の収集を実施する。

平成　28　年度事務事業評価シート

第２号様式

		シート作成日	平成28年10月11日
予算事業名	子ども読書推進事業	担当課名	生涯学習課図書館
		係名	―
細分事業名	―	事業番号	5
		事業開始年度	―

１.総合計画上の位置づけ

柱	Ⅳ　心豊かな人を育てるまちづくり	総合計画実施計画	
部門	４　生涯学習	認定番号	―
大施策	Ａ　生涯学習の環境づくり	事業名	―
中施策	（２）　生涯学習施設の充実		

２.事業の概要

根拠法令・条例等	図書館法、子どもの読書活動の推進に関する法律、大磯町立図書館の設置、管理等に関する条例、大磯町立図書館の設置、管理等に関する条例施行規則			
個別計画等	第２次大磯町子ども読書活動推進計画			
行政経営プラン 実施計画事業	実施番号	―	実施項目名	―
目的 （何のために）	子どもの自主的な読書活動の推進のため、家庭、地域、学校等と連携して読書環境の整備を行う。			
対象 （誰を・何を）	乳児、幼児、児童、生徒を対象とする。			
内容	４ヶ月健診時のブックスタート、おはなしと紙芝居、幼稚園・保育園年長児の図書館見学、小学校4年生の学級招待等の事業を実施するとともに、学校図書館との連携を図る。			
執行体制	■ 町職員実施	□ 一部委託あり	□ 全部委託	□ その他

		単位	平成26年度 （決算）	平成27年度 （決算見込）	平成28年度 （予算）
事業費	直接事業費　(a)	千円	889	2,401	1,213
	国庫支出金	千円			
	県支出金	千円			
	起債	千円			
	その他	千円			
	一般財源	千円	889	2,401	1,213
	職員人数（概算職員数）	人	0.65	0.65	0.50
	人 件 費 計　(b)	千円	2,079	3,049	2,886
	総事業費 (a)+(b)	千円	2,968	5,450	4,099
事業費内訳 Ｈ　28　年度	報償費：90千円　需用費：512千円　役務費：91千円　使用料及び賃借料：520千円				

３.指標値の推移

各種指標の実績と見込み、目標 （ 指 標 名 ）			単位	26年度 （実績値）	27年度 （実績値）	28年度 （見込み又は計画値）
対象指標 （対象者数等）	①	おはなしと紙芝居	人	1,250	1,290	1,000
	②	ブックスタート	人	164	152	162
活動指標 （活動量）	①	おはなしと紙芝居	回	110	110	110
	②	ブックスタート	回	8	6	7
成果指標 （達成度等）	①	実施回数当たり （おはなしと紙芝居）	人/回	11.4	11.7	9.0
	②	実施回数当たり （ブックスタート）	人/回	20.5	25.3	23.1

4.事務事業の評価

妥当性	・実施主体は妥当か		■ 妥当　□ おおむね妥当　□ 変更の必要あり　□ その他
		理由	子どもの自主的な読書活動の推進のため、図書館が中心となり読書環境を整備する必要がある。
	・実施手段は妥当か		■ 妥当　□ おおむね妥当　□ 改善の必要あり　□ その他
		理由	ブックスタート、おはなしと紙芝居、図書館見学、学級招待など、子どもの発達段階に応じた事業を実施している。
成果	・意図した成果が得られているか		■ 得られている　□ おおむね得られている　□ 得られていない　□ その他
		理由	第２次大磯町子ども読書活動推進計画に基づき事業を実施し、子どもの読書推進が図られている。
効率性	・コストに対して効率的か		■ 効率的　□ おおむね効率的　□ 非効率　□ その他
		理由	ボランティアとの協働により、事業を効率的に実施している。
	・コストの削減等を図ったか		□ 図った　□ 図られていない　■ 図る余地は無い　□ その他
		理由	必要最低限の予算で実施しているため、コストの削減を図る余地は無い。

担当課による評価	■	A 妥当性、成果、効率性はおおむね良いが、改善の余地がある	評価理由
	□	B 事業の一部見直しが必要	職員とボランティアの協働により、円滑に事業を運営している。
	□	C 事業の抜本的な見直しが必要	
	□	D 事業継続の必要性が低い（休止・廃止）	

5.改革・改善の方向性

①　課題点や改善点

子どもの自主的な読書活動の推進のため、更に啓発を進めていく。

②　平成28年度に着手する事項

学校図書館用パソコンの製品保証期間の延長
ブックスタートのパンフレットを作成して配布する。
学級招待のパンフレットを作成して配布する。
第３次大磯町子ども読書活動推進計画の策定

③　平成29年度に着手する事項

学校図書館連携システム稼働に伴う、新たな学校図書館との相互協力について検討する。

6.平成29年度事業への取組み状況（改善内容等）

記入日	平成29年3月29日

学校図書館との連携において、町立図書館間と学校図書館間の協力体制について検証を行う。
小学校新入学生を対象に「ステップ・ブック」リストと読書通帳の配布を実施するとともに、特集コーナーを設け読書に親しむきっかけを作る。